

|                         |                     |
|-------------------------|---------------------|
| 前 奏 黙想                  | 讃 美 歌 294 みめぐみゆたけき  |
| 招 詞 ガラテヤの信徒への手紙 3:28    | 聖 餐 式               |
| 讃 美 歌 19 みこえきくとして       | 讃 美 歌 205 わが主よ、今ここに |
| 祈 禱                     | 献 金                 |
| 信仰告白 使徒信条 566           | 讃 詠 547 いまさがるそなえものを |
| 聖 書 エレミヤ書 31:31~33      | 黙 禱                 |
| ローマの信徒への手紙 3:21~24      | 主の祈り 564            |
| 讃 美 歌 267 神はわがやぐら(ルター作) | 頌 栄 542 世をこぞりて      |
| 説 教 『牢獄が神の国になる』         | 祝 禱                 |
| 祈 禱                     | 後 奏                 |

M.ルターが聖書本来の「恵みのみ」に立ち帰った転換点として「塔の体験」が知られている。西欧の塔は牢獄を連想させるが、修道院の塔にあったルターの居室での体験。とはいえある意味「獄」でもあった。そんな居室でルターは「罪人を罰する神の義」と「無償の救い」の対立に苦しんでいた。

「ところが今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によって立証されて、神の義が示された(ロマ3:21)。「律法とは関係なく」と「律法によって立証され」では辻褄が合わない。「信じる者すべてに与えられる神の義(3:22)」は「律法による神の義とは違う」と言うなら、すんなり分かる。「ところが今や」とは、いわば転換点であり「キリストを信じる神の義」の福音が、「律法と預言者(旧約聖書の重要な柱)によって立証されている」。福音と律法は対立しつつも、同時に統合されているらしい。単純な「罪か義か」や、安直な「行いか信仰か」の区分けでは掴み得ない、絶妙な表現ではないか。

罪は、善行によって相殺されるようなものではない。「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっている(3:23)」。

そうでありながら、人は「神の恵みにより無償で義とされる(3:24)」。

裁きを伴う神の義は、そのまま神の恵みなのだ、とルターは聖霊に深く感応して、塔の牢獄は神の国となった。

神の恵み。私たちには無償でも、神にとっては致命傷とも言える「出費」だった。「キリスト・イエスによる贖いの業(3:24)」で支払われたから。「信じる者すべてに与えられる神の義(3:22)」とは、それほどまでの贖いの業。すなわち十字架で、御子イエスの命で「肩代り」された神の恵みであった。

「見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる(エレミヤ31:31)」。民は奴隷状態から解放されたが、神との契約を破った(31:32)。それでも神は御自分の民に未来の希望を託し、新しい契約を与える。「わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる(31:33)」。

それが十字架によって実現した。

律法という「外側」に掲げられた掟に従うのではない。サイズの合わない制服に各々の体押し込むような「神の義」ではない。私たちそれぞれの胸の中に、それぞれの心の中に刻まれる「神の恵み」の律法。私たち一人ひとりには、ピッタリのサイズ。それでも今度は、教会の「制服」と齟齬が生じるかもしれない。だから、神に創造された自分をとり戻そうとして起る摩擦熱は、自然で健全なのだ。

人は救われても、生きているから罪と縁が切れるわけではない。「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっている(ロマ3:23)」。

だがそれでも、十字架で贖われ「無償で義とされる(3:24)」。

「罪か救いか」ではない。神の恵み(3:24)で私たちは罪人のまま義とされ、キリストの救いに統合される。

「律法か信仰か」。これも「あれか、これか」ではない。「それでは、わたしたちは信仰によって、律法を無にするのか。決してそうではない。むしろ、律法を確立するのだ(3:31)」。

まさしくイエス御自身が、十字架にかかるその身を呈して語っておられる通りに、律法は信仰に統合される(マタイ5:17)。

解剖するように罪と義を区分すると分かり易い 裁きも救いも 分かったところで応えられるのか  
自分を勘定に入れると 義も救いも遠のいて行く だから 分けずに統合される 汚れたまま清く

次主日 11/2 は永眠者記念礼拝。礼拝直後に臨時総会(30分程度)、会員の皆さんは出席して下さい。  
またカレーの日です。どなたでも遠慮なくお召し上がり下さい。食事の後に役員会を行います。

八ヶ岳教会、礼拝堂と集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メールkomechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。